西東京市市民協働推進センター

平成 27 年度第 3 回運営委員会会議録（確定稿）

■開催日時：平成 27 年 6 月 16 日(火)午後 7 時～9 時 5 分
■開催場所：イングビル 3 階第 3、4 会議室
■出席委員：池田委員、伊藤委員、熊田委員、紺野委員、坂口委員、佐藤(文)委員、田中(紀)委員、富沢委員、中村委員、藤江委員＜以上 10 名、五十音順＞
■事務局　：内田センター長、佐藤副センター長、丸木福祉活動推進課長、石井地域福祉推進係長、塚澤主事

1. 報　告　事　項

1. 業務報告について

事務局より、5 月期の主催事業、その他事業、ホームページアクセス数、新規登録団体、市民活動相談の状況について説明があった。

委員長：ゆめこらぼミディ講座は男性も参加できるのか。

事務局：主な対象は女性だが、男性も参加可能である。

委　員：地域デビューということだが、参加者は自分が主体となり活動団体を立ち上げたいと考えている人か、既存の活動団体に参加したいと考えている人の参加が多かったのか。

事務局：既存の市民活動団体を探している人が多かった。

委員長：個別の団体紹介はその場で行ったのか。

事務局：団体紹介冊子を差し上げ、参加者からの一般的な質問に答えた。講座終了後、講師に対して市民活動に参加することに関する相談が多数あったようだ。

委　員：資料に２つの地域連携促進事業があるが、それぞれ別物か。それらの事業でマッチングさせているのか。地域によってそれぞれ問題が違う。南部地区対象の事業は組織化しようとしているが、柳沢での事業は交流の段階になっている。統一した考え方で進めていこうというわけではないのか。

事務局：柳沢での事業は柳沢公民館の講座に協力して団体と受講者をつなげるものであり、南部地区の事業は行政主導の事業でゆめこらぼは、一メンバーとして関わっている。

委　員：南部地区の事業で何を解決するのかが見えてこないので、今後の進め方としてどうなのかと疑問に思う点もあるが、面白いとは考えている。

委員長：一昨年に協働コミュニティ課が地域コミュニティ基本方針を策定し、いろいろな組織を巻き込んで、地域コミュニティを作っていくことになり、昨年南部地区をモデル地区として会議をやっていた。ゆめこらぼも最初はオブザーバーで入っていたが正式メンバーで参加するようになった。地域コミュニティ基本方針は市のホームページからダウンロードして欲しい。

2. 6 月以降の事業について

事務局より、6 月の実施事業などについて説明があった。

委　員：マンションでのアクティブシニアセミナーに参加した住民の年齢層はどうだったか。

事務局：50 代から 80 代の方が参加していた。

委　員：地域デビューという主旨がわかって参加されていた方がほとんどだったのか。

事務局：中心は 50 代、60 代だったので、主旨は理解していたと思う。

2. 審　議　事　項

1. 会議録について

委員長：今週末までに意見がなければ確定稿とする。

3. 協　議　事　項

1.NPO・市民フェスティバルについて

事務局より NPO・市民フェスティバル企画案について説明があった。

委　員：アスタセンターコートで開催することに決まっているのか。

事務局：一応、12 月 5 日にきらっとに予約を入れているが、実行委員会に諮って決めたいと思っている。事務方としてはアスタセンターコートでの開催を押していきたいと思っている。

委　員：1 日だけでなく、開催日数を増やすことはできないのか。

事務局：去年はきらっとで開催したが、1 日のみの開催でも参加団体の負担が大きいという声があった。そのため、1 日以上は無理と判断した。

委　員：展示ブースで 1 日に入れ替えを行って 2 回展示するということだが、入れ替え作業はかなりの負担になるのではないか。

事務局：展示パネルは可動式で、数は全部で 20 枚あり、1 回の展示には 10 枚使用することにより事前に用意することができるので、入れ替えにはあまり負担はないのではないかと考える。

委　員：それならば、むしろ 1 日ではなく 2 日間続けて開催するやり方の方が展示参加の団体には負担が少ないと思う。全体としての運営もうまくいくのではないか。

事務局：2 日間という意味は、1 日目と 2 日目では別の団体が展示するという意味か。

委　員：そうだ。

委　員：それに関することだが、短い時間の展示より長い時間の展示の方が団体関係者が展示場所に誰もいなくても見てもらえるチャンスはあると思う。

事務局：この日は日曜日なので、前日の土曜日も予約が可能であるかどうか確認し、一つの案として考えていきたい。

委　員：少なくとも長期間展示することによって見てもらえるチャンスは増えるのではないか。

委員長：センターコートで開催することにより、当初の目的が果たせるのではないかと思うが、場所に対する異論はないか。

委　員：場所に異論はないが、前宣伝をアスタでやることはできないか。呼び込みみたいなことをやるのはどうか。

委　員：パネルが一日限りではもったいないので、一週間くらい展示しておくことはできないか。

委員長：2 日間開催することにし、会場も変えることになった。また、力点が市民活動団体同士のつながりから、より市民に訴えることになった。以上の点を踏まえて、今までとは違うアイデアを出してもらいたい。

委　員：スペース的に狭くなるので、今まで通りのパネルですべて説明するのは難しいのではないか。ＵＲＬだけ載せておいて、そこから興味のある人は自力で調べていくという形にした展示会もあった。

委員長：パネル展示が前提ではなく、ゼロベースで考えてもいいのではないか。

事務局：案の一つとして映像を流すことができるのではないか。通行人が足を止められるような映像を常に流すこともできるのではないかと考えている。

委　員：アスタセンターコートは狭いので人が入らない。ワークショップブースに映像・パネルなど加わるとごちゃごちゃになり、すべてはできないと思う。

委員長：これまでのものをそのままアスタに持っていくのではなく、場所を活かしていくということを考えたアイデアがほしい。

委　員：舞台を主体としたパフォーマンスを中心とし、展示はこういう団体があります程度でよいのではないか。

委　員：パンフレットを置くことで対応すればよいのではないか。

委員長：ふらっと来る人にはチラシで対応し、総合窓口を作って相談に来た人をつなげることもできるのではないか。あのビルには店舗が撤退したりして空きスペースがあるようで、単発でお借りしてワークショップをするのもあるかなと思う。

委　員：ゆめこらぼの登録団体の中で、ワークショップを実際にできるとか、やりたいという団体はあるのか。

事務局：あるとは思う。

委　員：立ち止まってもらうためにはそこで、何か来るよとか、なにかやるよみたいな、広告塔が必要ではないか。西東京の中で比較的市民活動に理解がある有名人とかを呼んだらどうか。コンシェルジュがいるのは大切だと思う。人を呼ぶための何かが必要。

委　員：例えば一週間確保することもできるのか。一週間展示し、最終日には団体の人がいて質問に答える方法もある。

委　員：空き店舗があるならNPOの人にいてもらってゲリラ的に展開する。

委員長：きらっとのイメージは置いて、新たにアイデアを出し実行委員会にかけてもらい企画を検討してもらいたい。リビン、ＦＭ西東京などから協力を得てはどうか考えてもらいたい。

2. 広報戦略について

事務局より、広報戦略について説明があった。

委員長：具体的な広報資材について、4つのグループに分かれて議論することとする。

（4つのグループ毎の議論の後、グループ毎に議論の結果を発表した内容は、以下の通り）

委　員：ホームページでは、ブランドイメージをしっかり出す、講座のネーミングも考えるという結果であった。

委　員：グッズに関しては、キャラクターを何にするかということ、ゆめこらぼを分かり易く説明した漫画を作る、ゆめこらぼダジャレ、ゆめこらぼマッチなどのアイデアが出た。

委　員：機関紙は、現在の事業紹介などはホームページで充分であるので、西東京以外の情報にこだわる、年4回程度の発行にして記事を精査する、市民団体に読んでもらえるようにこだわった機関紙にすることにより、読者を増やすといった意見が出た。

委　員：リーフレットは、キャッチコピーとしては、いいまちに住みたいなら、あなたがやらなければならないということを訴求する。ゆめこらぼは、やる人を集めるための「まちの仕掛け人」になること、という意見があった。

委員長：次回は他のよい事例等をご持参ください。最終的にはブランディングを出していきたい。そこまで持っていきたいと考えている。

4. そ の 他

1. 西東京ボランティア・市民活動センターとの関係について

委員長が西東京ボランティア・市民活動センター（以下、ボラセン）の運営委員会の報告を行った。

委員長：ボラセンに関わっているボランティアは社会福祉系分野の人たちが主だが、登録者数が減ってもいないが、増えてもいない。ボランティアの実状はどうなっているのか、ボランティア振興はどうしていくのかという議論があった。ゆめこらぼ、NPO・市民活動団体など、ボランティアグループではないところにボランティアがいるが、ボラセンでは把握していない。つながりが少ないので機会があればボラセンの運営委員会とこちらの運営委員会で懇親・懇談が出来る場を持ってもいいのかなと思った。また、西東京市全体におけるボランティアとしての意見交換会があっても良いのではないかとも思った。

委　員：つなげるのは社会福祉協議会の役割ではないか。これだけ大勢の人がボランタリー的な事業をしている。

委　員：環境系などの団体はボラセンには入りにくいという意識があり分かれているのではないか。

事務局：ボラセンとゆめこらぼでは、ボラセンは主に福祉系のボランティアの支援をしていくということで棲み分けをしている。根っこのところは同じだが、表面上話し合うテーマがボラセンとゆめこらぼでは違っていたところがあったが、両方の運営委員会で人をどうやって巻き込んでいくかということが話題に出ている。たとえば、ボラフェスとNPO市民フェスティバルを一緒にできないかということも課題であり、共通点を見つけ出しながら西東京市全体をとらえ考えていきたい。

委員長：両方とも社協がやっているメリットをいかしてはどうかと思う。そういう取り組みも必要になってくるのではないか。引き続き検討していきたい。

2. 次回運営委員会日程について

日時：7月21日（火）19時～21時

会場：イングビル3階　第1、2会議室